就職活動応援特集

実情に応じた施設を設計

NJS
東京総合事務所　プロジェクトマネジメント2部
サブ・リーダー
清水　則年さん

■新規課題にも対応

当社は上下水道のコンサルティング業務のほかに、近年では効率的な施設の維持管理などを図るため、管路調査で使うドローン、施設管理などで活用できるクラウド情報管理システムの開発といった新規課題の解決に向けた事業にも取り組んでいます。

入社してから今年で10年目になります。所属している部署では、下水道施設の耐震設計、浸水対策事業や下水道管きょの実施・詳細設計などの業務を行っています。中でも私は下水道管きょの設計業務を担当することが多く、自治体から委託を受けて、実情に応じた経済性、維持管理性に優れた施設を設計しています。

■地域に貢献できる人材

入社してから6年ほど大阪総合事務所に所属し、現在と同じような業務に携わっていました。5年目の時に、主な担当者として初めて浸水対策事業の一環である雨水ポンプ場の設計業務を行ったことがあります。施設規模、管路ルートなどを選定する際、狭隘な敷地や地質条件、機械・電気設備との調整などさまざまな課題に直面しました。知識不足を痛感しながらも社内の方々に聞きながら、自分なりに課題をクリアしていきました。そうした経験を積み重ねてきた結果が今の自分の力につながっていると感じています。

昨年までの3年間、当社が代表企業を務めるクリンパートナーズ須崎（特別目的会社）に出向していました。この会社では、施設運営を民間事業者が長期間担う事業方式であるコンセッション事業「須崎市公共下水道施設等運営事業」に携わり、施設の維持管理等のほか、事業の立ち上げから会社経営という普段関わることができない貴重な経験もできました。今後国の施策を含め官民連携が加速することが予想されるので、この経験を生かして民間の立場から地域貢献を主導できる人材になっていきたいです。

■興味持てる分野

社内では、風通しの良い雰囲気が醸成されており、親身になって業務上のわからないことなどの話を聞いてもらえます。先輩・後輩問わず、コミュニケーションが取りやすく働きやすい職場だと感じています。

下水道は一般的に「汚い」「臭い」といったイメージを持たれることが多いですが、現在では下水汚泥の資源利用等による地球温暖化対策、下水中からウイルス感染状況を把握できる下水サーベイランスなど社会のトレンドに合った研究も行われていて、興味を持てる要素はたくさんあると思います。就活生の皆さんには、ぜひ下水道の仕事にも興味を持ってもらえたら嬉しいですね。

施工完了まで見据える

大原鉄工所
第2技術部エンジニアリング1課
梅澤　将充さん

■設計業務がメイン

当社は、新潟県長岡市に本社を構える産業機械・プラントメーカーです。事業の一つとして下水道分野で活動しています。

近年は、自社製品であるバイオガス発電機を組み込んだプラントシステムの提案に加えて、処理場施設内の機械や配管更新に伴う修繕も請け負っており、新潟県内に限らず、県外での案件にも幅広く対応しています。

私は入社して今年で8年目になります。電気が専門の学部を卒業後、県内就職を考えて、当時、小型水力発電の取組みを進めていた当社に興味を持ちました。当初は、自社製品を知ることが電気設計に役立てるとして機械設計を担当していた中で、下水道のプラント設計も手掛けたことをきっかけに、最近では専門のような形で携わっています。

■細かな調整が大切に

設計というと、机上で作業するイメージがあるかもしれませんが、当社は設計や施工管理を含む施工完了までの全ての業務を最後まで担当することを目標としています。

こうした中で印象に残っている仕事は、佐賀県であった処理場更新と合わせてバイオガス発電機を導入した現場です。4年目に初めて担当した大きな現場で、実際に現地に赴いて1年半ほど携わりました。

設計に当たっては、現場視察や聞き取りで初めて分かることがあり、これによって変更が生じることもあります。そうした時に、他現場で学んだ知識を生かした調整を図りながら、施工業者がやりやすい方法を突き詰めて考えることを常に心掛けるようにしています。

最初から関わってきたものが完成すると感慨深いですし、それ以降に話題に上がることがあると嬉しさを感じます。

■続けやすい環境で

仕事の都合上、個人の業務負担量によって忙しさが変わる点ははっきりしていると思います。その分、支える体制や社内の実状に合わせた改善を行うなど、柔軟に対応できるような取組みも進めているので、上手に活用しながら有効的に自分の時間を確保しています。

また業務面に関しても、最近は配属の適材適所を意識しています。入社後、一年間の研修で全部署の業務を一通り経験した結果を基に決めており、その人が働きやすい環境で仕事を続けられる取組みを導入しています。

仕事で難しいことを任されることもある反面、達成できた喜びとリターンも大きい仕事です。設計に興味がある方の選択肢の一つに当社を考えてもらえたら幸いです。

各社が誇る、現場で活躍する社員

進捗の決め手は調整力

荏原実業
上下水道エンジニアリング本部
システム設計部　主任
鈴木　悠太さん

■あらゆる人の役に立つ仕事

荏原実業は、上下水道に関連する施設の設計・施工を手掛けるエンジニアリング事業、独自の環境関連製品を製造・販売するメーカー事業、ポンプや空調冷熱機器等を取り扱う商社事業の三つを主力事業としています。

私は機械を通じて多くの人の役に立つことをしたいと思い、大学では機械工学を専攻していました。就職活動を進める中で、水道や下水道は、普及率が高く、多くの人の生活を支えるインフラであることを知り、水の仕事に興味を持ちました。そして、浄水場や下水処理場に水を送り届ける段階、水をキレイにする段階、浄化した水を排出する段階など、上下水道のさまざまな領域で事業を展開する当社に魅力を感じ、入社を決めました。

■現場での調整力

入社してからの多くの期間は、上下水道エンジニアリング本部の工事部で過ごしました。工事部は当社の中でも特に規模の大きな工事を手掛けており、その中で私は工事の進捗を管理する仕事をしていました。工事の進捗管理で大切なことは、現場代理人として発注者さまや数多くの協力会社の皆さまとコミュニケーションを取りながら、いつ、何を、誰と、どのように、といったことについて調整することです。

中でも印象に残っているのが、あるダムで発電に関連するポンプを設置した時のことです。ダムの中央にある施工現場まで船で移動して作業をしていたのですが、台風や流木といった自然の影響で工事を中止せざるを得ないことが何度かありました。こうした時、現場代理人の調整力が進捗の決め手となります。関係者の皆さまと綿密にコミュニケーションをとることで、この工事は工期内に終わらせることができました。自然が相手となる厳しい施工環境であったため、達成感もひとしおでした。

■多様な学びを生かす

キャリアアップという転職を想像される方も多いと思いますが、当社にはジョブローテーション制度があり、社内でもさまざまな角度からキャリアを積むことができます。当社は事業領域が広いため、異動先が同じ本部内であっても、違った視点で上下水道業界を捉えることができるからです。私は将来的には、ジョブローテーションで多様な仕事を経験し、上下水道界のさまざまな要求に対応できるユーティリティープレイヤーになりたいと考えています。

学生時代に学んだことは、仕事の中で、思いもよらないような形で生きることがあります。私は大学では流体力学を学習していたのですが、今の仕事でまさにその学問が生きています。将来生きるかどうかわからない学問と向き合うことは力のいることかもしれません。しかし、皆さんが大学で学ばれる専門的な知識や技能は、上下水道に幅広く携わる当社で生きるかもしれません。皆さんの挑戦をお待ちしています。